

令和4年度 太田商工会議所 経営発達支援事業の結果報告

事業評価委員会

日 時：令和5年3月17日（金）午前11時00分開催
 出席者 評価委員 関東学園大学経済学部経営学科 間普崇 教授
 (株)ナット経営コンサルティング 戸塚栄三郎 代表取締役
 群馬県産業経済部産業政策課 上山英人 課長 ※書面決議
 共同作成者 太田市役所産業環境部 飯塚史彦 部長
 事務局 湯澤秀明専務理事、川内所長、福島課長、原課長、関口
 内 容：資料に基づき支援事業の結果について事務局から説明し、別紙の通りの評点と評価コメントを頂いた。

この評価の結果を4月11日（火）開催の正副会頭会議にて説明し、委員から指摘を頂いた事項を改善しながら、継続して取り組むことで承認を頂いた
 事業実施期間：令和4年4月1日～令和5年3月31日（令和4年度開始5か年計画）

補助対象期間：令和4年7月29日～令和5年2月28日
 補助金申請額：1,797,655円
 // 使用額：1,628,956円

I. 経営発達支援事業の内容

1. 地域の経済動向調査に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R4年度		R3年度
				目標	実績	実績
1	① 管内景況調査 (DI調査)	○	四半期に1回、管内の商業140社、工業130社に対し、DI調査を依頼。結果を会報、HP、冊子にて周知。	4回	4回	4回
2	② 景況感聞き取り調査	○	毎月1回、従業員50人以下の会員事業所へ職員が訪問し、経営状況等をヒアリング。正副会頭会議に報告し会議所事業の参考とする。	12回	12回	4回
3	③ 経済概況発行	○	工業統計、商業統計、市町村民経済計算等にて発表された各種数値を整理・加工する。経営指導員の支援に役立たせる。	1回	1回	1回
4	④ 小規模企業景況調査	○	毎年所得税確定申告期間に売上高等を調査し、業種ごとに前年対比の各数値の傾向を分析する。経営状況分析の際に同業比較等で活用。	1回	1回	1回
5	⑤ 地域経済動向調査	○	RESASから地域経済循環マップ・地域経済循環図、産業構造マップ、まちづくりマップ・From-to分析等を抽出。事業計画策定支援の際に外部環境分析に活用。	1回	1回	—
6	⑥ 経済産業省生産動態 統計調査	○	自動車部品製造者向けに「輸送機械—自動車部品及び内燃機関電装品」の生産数量、生産金額の動向を毎月時系列にまとめ変動を収集、整理。	12回	12回	12回

2. 需要動向調査に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R4年度		R3年度
				目標	実績	実績
	① 新商品開発のアンケート調査対象事業者数	×	当所が開催する事業（地域振興イベント等）において、会報により参加者5者を募り、試食・試用及び来場者アンケートを実施。新商品開発や販路開拓を行う際に参考となるよう組織的支援を行う。	5者	0者	—
7	② 商圈調査 対象事業者数	×	株式会社 日本統計センターが提供するサービス「MieNa（市場情報評価ナビ）」の市場分析データを、創業者や新たな地域に販路開拓を挑もうとする商業・サービス業者に対し情報提供する。	16者	3者	—

① 新商品開発のアンケート調査対象事業者数

令和4年度は出展イベントが開催できなかった。令和5年度は当所開催のイベントや、展示会への出展を支援し、新商品開発のアンケート調査を実施予定。

② 商圈調査 対象事業者数

MieNaは令和2年度から導入した。本商品は市町村・町丁目単位の分析データが出力でき、地域の実情に合った市場分析が可能である。実績は3者と目標に対し未達であるが、これは経営指導員が十分にMieNaを使いこなせていないためである。令和5年度はMieNaの使い方についてOJTとOFF-JTを実施し改善を図っていく。

3. 経営状況の分析に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R4年度		R3年度
				目標	実績	実績
8	① 経営状況分析件数	△	TOASやローカルベンチマーク等を活用して、定性・定量分析を実施。	96者	72者	99者
9	② 経営状況分析セミナー開催数	○	経営状況分析と事業計画策定をパックにした2日間のセミナーを年1回開催する。	1回	1回	1回

① 経営状況分析件数

経営状況分析については、補助金や融資等の申請と併せて実施してきたが、令和4年度はこれらを希望する事業者が減少したため、実績は72者と低調となった。また、毎週月・木曜日に専門家による個別相談会を開催したため、経営指導員の対応件数が減少したことも要因である。なお、専門家が対応した事業者数は50者、延べ相談回数は91回となる。令和5年度においては、ローカルベンチマークを活用したセミナーを開催する等して、経営指導員による対応件数の増加を図る。

② 経営状況分析セミナー開催《資料10参照》

題名：事業計画作成セミナー

日時：令和4年10月13日(木)午後2時 11者

講師：田辺 浩氏（中小企業診断士）

4. 事業計画策定支援に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R4年度		R3年度
				目標	実績	実績
8	① 事業計画等策定支援数（経営革新、事業承継含む）	△	経営分析を実施した小規模事業者、持続化補助金を検討している小規模事業者、課題解決に意欲的な小規模事業者を対象に支援を実施。	80者	51者	52者
10	② 創業・第二創業計画策定支援数	○	あらたに創業を目指す者、第二創業を目指す者を対象に、地区担当指導員が支援を実施。	20者	46者	19者
9	③ 事業計画セミナー数	○	経営状況分析と事業計画策定をパックにした2日間のセミナーを年1回開催する。	1回	1回	1回
11	④ 創業スクール数	○	年1回開催。カリキュラムを、経営、財務、人材育成、販路開拓など必須事項を決め開催し、事業計画書策定まで導く。	1回	1回	1回
12	⑤ DX推進セミナー	○	販路拡大、売上拡大を目指す小規模事業者向けに、ネットショップの現状や売れるためのポイント、苦情への対応などネット販売に関する知識を学ぶセミナーを年1回開催する。	1回	1回	—

① 事業計画策定支援数

マル経融資 7 件、ものづくり補助金 1 件、経営力向上計画 1 件、
事業再構築補助金 8 件、小規模事業者持続化補助金 35 件、先端設備等導入計画 3 件

② 創業・第二創業計画策定支援数

創業スクール受講者 20 者の内 12 者。

③ 事業計画セミナー開催

題 名：事業計画作成セミナー

日 時：令和 4 年 1 1 月 1 6 日(水)午後 2 時 9 者

講 師：田辺 浩氏（中小企業診断士）

④ 創業スクール数

題 名：「太田商工会議所創業スクール」

期 日：令和 4 年 1 0 月 6 日(木)、1 1 日(火)、1 4 日(金)、1 7 日(月)、2 0 日(木)、
2 4 日(月)、3 1 日(月)、1 1 月 2 日(水)

※全日オンライン開催

時 間：午後 6 時 3 0 分～午後 9 時 計 8 回（合計 2 0 時間 0 0 分）

受講者：2 0 者

講 師：大木ヒロシ（ジャイロ総合コンサルティング会長） 他

創業者：1 者（今後創業予定 6 者）

5. 事業計画策定後の実施支援に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R4年度		R3年度
				目標	実績	実績
8	① フォローアップ対象 事業者数	×	事業計画を策定支援した事業者を対象に計画の進捗状況についてフォローアップを行い、計画との差異が生じた事業者については、どんな理由で差異が生じたのかを明らかにし、その差異を埋めるための対策を検討し実行するまでを支援する。	100者	17者	44者
	② 頻度（延回数）	×		320回	234回	217回
	③ 売上増加事業者数	×		26者	6者	—
	④ 営業利益率1%以上 増加の事業者数	×		26者	0者	—

① フォローアップ対象事業者数

フォローアップについては、事業計画策定者 51 者の内 17 者（33.3%）と目標未達となる。令和 5 年度は事業計画策定者リストを作成し、フォローアップの進捗状況を確認できるよう改善を図っていく。

売上高・営業利益については、18 者に確認をとったがコロナ禍や物価高騰の影響もあり、売上が増加した事業者は 6 者、営業利益率が増加した事業者においては 0 者となった。

6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関すること

資料 No	調査事業名	自己 評価	事業内容	R4年度		R3年度
				目標	実績	実績
13	① ビジネスプラス発表会発表数	○	管内事業者が開発した、新商品・新製品・新サービス、特徴ある技術・商品、または創業してまもなく新分野に進出した際、効果的に PR する場として、マスコミ記者の方々一堂に集まって頂き、事業者の為に記者会見を開催	8者	7者	7者
	② ビジネスチャンス交流会 発表者数	—	管内製造業を対象に年1回開催。販路開拓に意欲的な事業者が自社の製品や技術力を発表する場を設け、新たな需要の開拓へ貢献する。	2者	中止	中止
14	③ まちゼミ参加者数	△	まちゼミは、お店（店主やスタッフ）が講師となり、専門的な知識や情報、コツを無料で受講者（お客様）に伝える少人数制のゼミである。お店の存在・特徴を知って頂き、お店とお客様との信頼関係を築くことを目的とする。	63者	29者	中止
	④ ものづくり工業ビジネス交流会参加事業者数	—	高崎・太田・桐生・伊勢崎商工会議所が主管となり、市域の製造業の広域連携による「ものづくり工業」の産業振興に資する事業として自社の商品や技術を PR する交流会を実施する。	10者	中止	中止
	⑤ ネットショップ開設者数	△	ネットショップの立ち上げに対し、よるず支援機構や IT ベンダーの専門家等と連携し、ネットショップ構築支援、PR 手法、RFM 分析、ABC 分析等の支援を行う。	16者	7者	3者
15	⑥ SNS 活用事業者数	○	インスタグラムを活用している事業者に対し、当所のインスタグラムへの掲載を行い、商品・サービスの PR 支援を行う。また、SNS を活用していない事業者に対し、SNS の活用を支援する。	16者	32者	—

16	⑦ ザ・ビジネスモール 新規登録事業者数	△	小規模事業者の商圏の拡大や様々な分野への進出を支援していくことを目的に、大阪商工会議所が運営し全国の商工会議所・商工会との協調事業であるインターネット上の商取引支援サイト「ザ・ビジネスモール」への登録を推進して、B to Bの販路開拓を支援する。	24者	17者	—
----	-------------------------	---	---	-----	-----	---

① ビジネスプレス発表会

第26回 令和4年9月13日（火） 4社

第27回 令和5年2月 8日（水） 3社

3社が上毛新聞に掲載された。

② ビジネスチャンス交流会 発表者数

新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

③ まちぜみ参加者数

例年60者程が参加していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により2年間中止していたことに加え、感染症も完全に収束していないため募集をかけたが29者と低調となってしまった。

④ ものづくり工業ビジネス交流会参加事業者数

新型コロナウイルス感染症の影響により中止。

⑤ ネットショップ開設者数

目標16者に対し実績7者と未達となる。ネットショップを新たに開設する相談件数についても、コロナ禍初期に比べ減少した。しかしながら、野村総合研究所の予測では、EC市場は今後も伸長していくとされており、今後はネットショップの出店セミナー等で啓発活動を行い開設の推進を図りたい。

⑥ SNS活用事業者数

当所の公式インスタグラムへの掲載25者。経営指導員によるSNS活用支援7者。その他、SNSの活用を普及させる施策として「映える店舗のガイドブック」を作成し、太田駅、クレインサンダース、太田市役所、行政センター等で配布した。

⑦ ザ・ビジネスモール新規登録事業者数

これまでに100者がザ・ビジネスモールに登録した。令和5年度も各経営指導員が目標を達成できるよう推進していく。

令和4年度 太田商工会議所 経営発達支援計画 評価結果 令和5年3月17日

分類	項目	上山 委員	間普 委員	戸塚 委員	平均	委員からのコメント
経営発達支援事業の内容	1. 地域の経済動向調査に関する事	5	5	5	5.0	令和4年度もコロナ感染症の影響が少なくなかったが、様々な動向調査についての目標を達成できていると評価します。(間普委員) 計画通りの実績が出せて良いと思う。毎年度計画通りか計画を上回って結果が出ているので評価できると思う。(戸塚委員)
	2. 需要動向調査に関する事	2	2	3	2.3	コロナ感染症のため、出展イベントが開催できなかった点が残念です。次年度以降は、感染症の状況を注視しつつ代替的なイベント開催方法等を検討することを期待します。(間普委員) アンケート調査を予定しているイベントが開催出来ていない事で、実績が無く評価を低くさせて頂いた。次年度は実績を出して欲しい。(戸塚委員)
	3. 経営状況の分析に関する事	4	4	4	4.0	概ね目標を達成したと評価します。大きく上回る件数を実施した点は高く評価します。(間普委員) 専門家による個別相談会の開催があったため、指導員が対応する案件が減少した事であるが、逆に専門家と協調した指導等工夫をして実績を増加させて欲しい。(戸塚委員)
	4. 事業計画策定支援に関する事	5	5	5	5.0	創業・第二創業計画策定支援について、目標を大きく上回る件数を実施した点は高く評価します。(間普委員) 多くの補助金が出ており、それに伴う計画策定も多く、支援出来たことは良いと思います。今後も計画策定は必要な事ですので支援強化をお願いいたします。(戸塚委員)
	5. 事業計画策定後の実施支援に関する事	3	3	3	3.0	コロナ禍や物価高騰等の環境下において、フォローアップ等の支援の重要性は高いと考える。そのため、次年度以降より多くのフォローアップが実施できるよう期待します。(間普委員) 実績が少ないので、今年度の反省を含め次年度の実績を増加させて下さい。(戸塚委員)
	6. 新たな需要の開拓に寄与する事業に関する事	4	3	4	3.7	新たな需要開拓のイベントについて、コロナ禍のため中止せざるを得なかった点は残念です。次年度以降、適切なイベント開催方法を検討することを期待します。(間普委員) コロナ禍による会合の中止等もあり実績の無い事業もありましたが、次年度はコロナの影響も少なくなると思いますので実績を期待します。(戸塚委員)
平均		3.8	3.7	4	3.8	

総合コメント

上山委員	新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい状況の中、経営発達支援事業に積極的に取り組まれ、実績につながっていると考えます。今後もより一層の取組の推進を期待します。
間普委員	令和4年度は、コロナ禍や物価高騰の影響が大きかったことがうかがえます。そのような状況下においても、5カ年計画の初年度を計画に沿って適切に実施できたと評価します。環境の変化を見極め、必要に応じて計画の修正等をしなが、計画を実施していくことを期待します。
戸塚委員	次年度はコロナの影響は少なくなると思うので今まで出来なかった事業や対面での調査等積極的に行って欲しい。値上げや賃金の引き上げで、中小企業には厳しい経済状況だと思います。よりいっそうの支援・指導をお願い致します。